



再生可能エネルギー2010国際会議 宣言文

“Advanced Technology Paths to Global Sustainability”

会場 パシフィコ横浜、2010年6月27日-7月2日

再生可能エネルギー技術の進展に貢献し持続可能な再生可能エネルギー産業を発展させるために、65ヶ国から1,300名以上の専門家が横浜市にあるパシフィコ横浜に参集した。参加者全員は、次のような基本的な理解と提案を世界に向けて発信することに同意した。

- 一連の当会議開始以来（日本・幕張における再生可能エネルギー2006国際会議、韓国・釜山における再生可能エネルギー2008国際会議）、歴史的な変化がエネルギーの世界で起こっていることを見てきた。
- 2007年に発行された第4次IPCC報告書は地球気候変動と人間活動にもとづくCO₂の関係を明文化し、続いて行われた分析で450ppmシナリオに沿って行動することが技術的にも経済的にも可能であることを示めた。今や、今世紀後半において持続的な世界に向っていくには再生可能エネルギーとエネルギー効率化は最も基本的な鍵であることが十分に理解されている。IRENA（国際再生可能エネルギー機関）が設立され、主要各国政府は多様な“グリーン”政策を打ち出している。
- 再生可能エネルギー市場は急速に拡大され、世界的にも再生可能エネルギー設備の増設が続いている。特にアジア地域で顕著である。風力は2倍になり、太陽光発電は2006年から2009年でほぼ4倍になった。しかしながら、全エネルギー使用量に占める再生可能エネルギーの割合はまだ小さい。今世紀中盤には全エネルギーの中で重要な割合を占められるように均衡を持ちながら一層の拡大を図っていかなければならない。
- 更なるコスト削減と、再生可能エネルギーに関わる効率向上と信頼性改善を通じて、再生可能エネルギーの課題解決を加速させるには、先進的かつ革新的な技術が不可欠である。この会議では驚異的な高効率太陽電池（例えば40%）が討論された。個々の再生可能エネルギー技術に加え、エネルギー貯蔵の複合化や複合化システムのマネージメントが、ゼロエミッションハウスや低炭素コミュニティを実現させるために益々重要になってくる。
- 同時に、再生可能エネルギーの強力な普及のために、その貢献を後押しするような強固な政策の枠組みが必要である。そのことは、エネルギー供給の安定化と経済成長の両方に利益をもたらす。
- 再生可能エネルギー技術やそれら政策分野の専門家である我々は、高品質な生活ができる持続可能な世界を今世紀中に実現させるために、技術的な挑戦に挑み、再生可能エネルギー市場を成長させていくことに貢献する。
- ここに参加している我々全員は、2012年にアジアのどこかで開催される次回の当再生可能エネルギー会議で再会することを望んでいる。